

第3回 市川三郷町 第3次総合計画審議会
議事要旨

日時：令和6年3月27日（月）午後2時00分～午後4時15分

場所：市川三郷町本庁舎1F 大会議室

出席者：小川委員、加藤委員、渡井会長、小林委員、丹沢委員、塩澤委員、渡邊委員、
村松（昭）委員、市瀬副会長、村松（て）委員、浜野委員、片山委員、依田委員

欠席者：高尾委員、青沼委員、土橋委員、笠井委員

資料： 資料1 市川三郷町第3次総合計画策定に向けた検討の流れと課題等の総括
資料2 市川三郷町の10年後を描く住民ワークショップ報告書
資料3 全体構成案
資料4 将来像（案）
資料5 施策体系案
資料6 総合計画について 知っておきたいポイント（バックキャストिंगに
ついての説明）
資料7 意見記入用紙

次第

- 1 はじめのことば
- 2 政策推進課長あいさつ
- 3 議題

（1）住民ワークショップ報告書（資料2）

（2）計画策定に向けた検討の流れと課題等の総括（資料1）

それぞれについて、（株）ぎょうせいの中井から説明。

【質疑】

○資料1の12ページの計画全体の評価について、コロナ禍や計画期間の前倒しなどを踏まえて、「おおむね順調」とであると評価できるという総括だったが、詳細な評価結果が示されていないので、我々にとっても判断材料がない。次回用意していただければと思う。（会長）
⇒次回お示しする。

○資料1の15～16ページで示されている課題が、本日の資料5の施策体系と紐づけられていると理解しやすいと思うので、検討していただければと思う。（会長）
⇒ご意見を参考にさせていただく。

○資料2の5ページで、「町に保育所～高校まである」が強みとなっているが、6ページでは弱みとなっている。どちらが正しいのか。（渡邊委員）
⇒6ページ以降の強みと弱みの色が反対に表記されているので、修正する。

○資料1の15ページのまなびの拡充課題について、ふるさとキャリア教育とは青洲高校の青洲学のことと理解しているが、14ページの強みの4つ目に「幼稚園からのふるさとキャリア教育に力を入れている」と記載があるので、ご教示いただきたい。（塩沢委員）

⇒ふるさと教育は小中学校で実施しているものだが、今後保育園などにも広げていきたい意味合いも含めている。書きぶりは検討していく。

○資料1の15ページ「3. 将来につながる「まなび」の拡充」について、「3地域全てに中学校があるなど教育が維持されています。」とあり、また「小人数学級をメリットとして捉えた教育」とも記載がある。町の財政非常事態宣言を踏まえて、この人口規模に対して小中学校の数も適正なのかということが今取り上げられている。令和6年度から検討委員会を設けることになっている。児童生徒のより充実した教育を行うためにはどの程度の規模がいいのかという観点で検討するが、資料1の課題と進む方向とが合致していないといけないのではないかと気になった。(丹沢委員)

⇒令和6年度から学校の適正化について、検討委員会を開催していくが、財政非常事態宣言による行財政改革とは別なものになる。ご意見の課題の書きぶりについては、改めて検討させていただく。

○少人数学級について、子どもがいる母親に話を聞くと、デメリットの方が大きいという考えをお持ちの方もいる。理由として、「子どもが少ない人数の中だと揉まれない」「もっと大人数のところで教育させてほしい」という意見が六郷地区の方が多い。適正化の検討については、小中学生の子どもがいる母親等のPTAもメンバーに加えて検討していただきたい。それから子育て世代の移住を促すことが1番住民の数が増える。その時にこの町だったら良い教育環境の中で育てられるっていうポイントがあると良い。例えばプログラミング教育を充実させて、これから社会が求められる人材を育成できることをPRして、市川三郷という町に愛着を持ってくれるような教育と組み合わせることで、大学等の進学で一旦外に出てもまた戻ってきてくれることへつながる明るい見通しが持てるものが必要。(依田委員)

⇒確かに少人数学級はいいことばかりではなく、競争力が小さい頃から養えないといったデメリットがある。適正化の検討をしていく際は保護者の方々にも出席していただくのは大前提で、教育委員会で進めていくことを考えている。一度町を出ても戻ってくるような教育については、ふるさとのキャリア教育が、町のいいところや魅力を小さいうちから学んでもらうカリキュラムになっている。さらに町の個性が出るような教育とすることで、「ふるさとキャリア教育」によって、移住してこられることを念頭に置いている。

○少人数学級について、大塚は25人程度となっているので、少人数を理由に他の私立に行ったりする児童も出てきている。子どもの人数が少ないことが影響していると思う。また、資料1の3ページに「リニアに期待した二拠点居住」とあるが、ぜひ力を入れて町として計画を立てて、波場公園周辺の居住地開発など移住できるように環境整備をしていただきたい。(渡邊委員)

⇒波場公園は景色がいい上、リニアが完成すれば10分程度でアクセスできる。農振除外にも関わってくるので、波場公園の開発については今後検討する場所であることは把握している。

○いろんな教育の質があると思うが、基本的には25人学級というのは教員一人のケアが行き届く数だと思う。近年生徒の対応も多様化し、保護者の考え方も多様化する中で、先生

方は疲弊している。その中で良い教育、本来学校がやろうとしている教育をするためには、やはり人数を少なくするしかない。全国的に子どもの人数少なくなると、競争力もなくなるといふ懸念はあるかもしれないが、いろんなことを教えるっていう意味では25人ぐらいが良いと思う。もう一つ、様々な〇〇教育があるが、市川三郷町の良さは何かと考えた時に自然の豊かさじゃないかと思う。他の自治体と同じようなことをやっても意味がない。本当の市川三郷町の良さを教えるためにふるさとキャリア教育がある。農作業の体験等しながら産業と紐づけていければ良い。(小林委員)

⇒参考とさせていただき、取り入れていけるよう検討していく。

○資料5の施策体系について、4本柱を6本柱にした理由について、教えてほしい。(副会長)

⇒今の体系を3層から2層とすることでシンプル化を図る一つの提案であり、本日ご意見いただいて、ブラッシュアップしていきたい。

(3) 全体構成案(資料3)

(4) 将来像について(資料4)

(5) 施策体系について(資料5)

それぞれについて(株)ぎょうせいの中井から説明。

【質疑】

○資料4の将来像に関して将来像というよりは、キャッチフレーズ的な意味合いでの理解でよいか。

⇒将来像として、覚えていただきやすいキャッチーなフレーズを考えている。

○資料1の16ページの課題にテクノロジーの話が出てくるが、資料5の施策体系にはそれに対応する項目がないように思う。(会長)

⇒今回、総合戦略を内包するので課題に総合戦略も含めている。資料3の計画の構成の基本計画の中に、分野ビジョン編と総合戦略編で構成することを検討しており、総合戦略にデジタル実装のための取組を含めることを検討している。

○将来像としては町全体の姿がわかるものにする事で、バックカスティングの視点を含めた議論ができると思うが、今回はキャッチフレーズ的なものを検討しているとのことなので、バックカスティングを踏まえることは難しいと感じている。第2次と同じように将来像を具体的なものにするのが良いと考えている。それから、施策体系の6の柱で構成することという話の中で、全て肩を並べるのではなくて、その中で何か特化したものを重点施策に設定していくのはどうか。(塩沢委員)

⇒重点施策を設定するかを含めて検討していきたい。

○高齢者の付き添い等のニーズの高まりや、一人親の家庭など様々な環境がある中で、弱者の部分についても体系の中に入れていただきたい。また将来像として、自然環境がいいので、その中で子どもたちを育ていきたいと思えるようなフレーズを含めていただきたい。

(村松(て)委員)

⇒ご意見参考に踏まえていきたい。

(6) バックキャストイングについて (資料6)

【質疑】

特になし

(7) その他

次回審議会は6月を予定している。ご意見を踏まえて基本構想案を修正して、資料をお示ししたい。

【質疑】

○目玉になるような施策を前面に出して、流山市みたいに好循環を生む計画を考えてほしい。もう一つ、ワークショップや審議会等で役場職員も含めて意見を出せる場を設けていただければ良いと思う。(塩沢委員)

⇒今回のワークショップは職員も含めて検討した。

○総合計画は最上位であるが、他の計画は先に見直しが行われたりするので、住民に分かりやすいように整理して提示していただきたい。(渡邊委員)

⇒この総合計画ってというのは、あくまでも全てのものを含めた最上位の計画として、農業や福祉等いろんな分野も入った総合計画という認識でいただければと思う。(会長)

⇒町民の方からすれば、いろんな計画があって、混乱する部分はあると思うが、個別計画の策定時は総計の方向性と整合性を図りながら策定している。

○町民は高齢者が多いので、作成するときの文章や単語は分かりやすい言葉で作っていただければよいと思う。(村松(昭)委員)

○策定に向けて、子どもから高齢者まで誰も取り残さない計画にできればよいと思う。(村松(て)委員)

○資料がたくさんあり、まとまっている部分もあるが、もっと分かりやすく示していただければよいと思う。(浜野委員)

○町のHPに様々な計画が掲載されているが、具体性がみえてこない。すべて網羅することは不可能なので、ポイントを絞った方向性を掲載していただければと思う。(依田委員)

○この10年間で人口構造も変わってくると思う。世帯数はあまり減らないが、人数は減ってくる。削減するところはしっかり削減して思い切った取組をお願いしたい。(片山委員)

○ふるさとキャリア教育が第2次で掲げられて、それが実際に取り組まれているので、総計で検討したことがしっかり活かされていると実感した。毎年行っている中学生の職場体験で、今年からは商工会を通して、職場体験しているので、その取り組みが将来町に戻ってくることに繋がると思う。教育活動に地域の方が参画して、さらに地域が活性化していくような視点も含めていただきたい。(丹沢委員)

○総合計画で次の10年を考えていくときに、視点を絞った取組を行っていくのは良いと思うが、時代の変化に対応できるのかと思うところもある。ウェルビーイングをキーワードとして、住民が理解しやすい、人とのつながりによって個人が繋がる計画になると良い。(小林委員)

- 人口減少と比例して銀行の営業実績も減少している。産業の誘致や伝統産業をしっかりサポートして、地域で産業を増やすことで人口減少抑制に繋がると思う。(加藤委員)
- 総合計画の認知度が低い、中高生は愛着を持っている生徒も多い。もっと動画を使うなどしてPRしていくことで、ふるさと納税額アップに繋がると思う。それぞれの地域で資源があるので、市川三郷町の魅力を知ることが、好きにつながると思う。若い人の力を取り入れていければと思う。(副会長)
- 計画は分かりやすく、地域の暮らしを大切にしながら、愛される計画であることが大事。将来像は市川三郷町らしさをどのように表現して作っていくのかも含めて検討する必要がある。策定後は、行政が効率的かつ効果的な運営に努めていただきたい。そのためには成果指標など目標値の設定、達成状況を町民も理解できる、または他自治体と比較ができる指標も検討していただきたい。それから、行財政改革の関係を含めて、限られた予算をどうやって使っていくか。長期計画を個別計画と連動させて、予算と評価、あるいは議会対応のこともあるのかもしれない。その中で総合計画を運営について示されればわかりやすい。本日出された各委員の意見を適切な対応で参考に取り入れていただきたい。最後に策定後においては的確な情報発信をしていただき、町の魅力を町内外の方々に理解していただくような取り組みも検討していただきたい。(会長)

4 おわりのことば

以上